

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせた作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

**エントリー学校名：**静岡県掛川市立西郷小学校

**活動名：**主体性アップ！校内研修～職員の授業力と参画意識の向上～

**解決すべき課題：**  
 「特別な教科 道徳」の市の指定研究校となった。新たな取り組みのため不安を感じている職員も多い。主体的に取り組めるような研究にしていけるためには、何をどのように研究しているかわかりやすいこと・やらされている感が少なく効果的であることが大切だと考えた。さらに、一人一人の授業力アップと校内研修への参画意識の向上に繋がる研究にしていかなければならないと感じた。

**目標・方針：**  
 ① 研究の方向性や研究の進め方について、明確なビジョンを示し、共通理解を図る。  
 ② PDCA サイクルを意識した研究推進委員会、校内研修、学年部研修をし、個人研究も推進していく。  
 ③ 無理のない研修計画、効果的な研究組織、負担感の少ない研究内容にする。

**活動内容：**  
 ① 明確なビジョン→共通理解  
 ・分かりやすい研究構想図示し、話し合いの視点を明確にする。校内研修と学年部研修を同じように進める。  
 ・研究の成果と課題を出し合い、共有し、研究推進委員会で成果を生かした方向性を示す。  
 ② PDCA サイクルを生かした研究  
 ・研修は、PDCA を意識した進め方をする。全体で出てきたことを研究推進委員会で検討し、提案していく。  
 ・授業研究後、各自に「自分の授業に生かす」ことを明記させ、個人研究も進めていけるように推進する。  
 ③ 研修計画、効果的な組織、負担感の少ない研究  
 ・年度初めに校内・学年部研修の計画を立て、行う。研究推進委員を中心に学年部研修の充実を図る。  
 ・学年での授業研修は、同じ教材を扱い、改善していくことで研究を深めていく。

**活動の成果：**  
 ○研究を進めていく視点が明確になっていたのわかりやすかったという意見が多かった。  
 ○学年部研修が効果的に取り組めた。校内研修と同じ方法で研修を進めることで深めることができた。また、同じ教材を扱うことで、負担感も少なくできた。  
 ○日々の道徳の授業に対する取り組みの姿勢が昨年度より向上した。他教科の授業力アップへも繋がった。  
 ○「校内研修において、全体が共通の課題意識をもって進め、全員参加の研修会になっていて、ミドルリーダーの教員や学年部の教員で授業改善を支援し合っている」と全職員が感じていた。さらに、それをもとに個人研究を進める職員も増えてきた。

**アピールポイント（アイデアや工夫）：**  
 ○どの職員も明確なビジョンをもって研究を進められるようにしたこと。  
 ○学年部研修が充実したものになるように、研修の進め方や視点を示したこと。  
 ○自分の授業に生かすことを推進したこと。  
 ○負担感が少なく、効率良く・効果的な研究が進められていること。

